

島根県トライアスロン協会 会報

2025年10月吉日

島根県トライアスロン協会会員の皆様、今年のトライアスロンシーズンはいかがだったでしょうか？ まだ終わっていないという方もいらっしゃると思いますが、レースレポート等が続々と届いておりますので、ご覧下さい。

会報誌は、季刊発行（1月、4月、7月、10月）を目指しておりますので、会員皆様からの投稿を是非お願い致します。過去の会報誌では、レースレポート、新会員紹介やコラムなどありましたが、なんでもOKですので、発行前月の20日までに（4月発行であれば3月20日までに）、私のメール（machokato@smn.enjoy.ne.jp）に原稿送付お願い致します。

会報誌担当 加藤一朗

【2025年新秋号目次】

- | | |
|---------------------------------|------------|
| ① 2026年度会員登録について | |
| ② 上田藍さん来県決定 | |
| ③ 国スポ速報 | |
| ④ レースレポート 皆生トライアスロン大会 | 森 正寿 |
| ⑤ 税理士トライアスリート大会参戦記 | 永瀬 大輔 |
| ⑥ 第7回さくらおろち湖トライアスロン大会 | 佐野 堅二 |
| ⑦ 第22回キッズスイムランin多岐 | 岡 秀樹 |
| ⑧ チャレンジ隠岐の島2025～ジュニアトライアスロン体験会～ | 加藤 一朗 |
| ⑨ 役員紹介 | 岡 秀樹 加藤 一朗 |

2025年10月1日より

2026年度の会員登録が始まります。

2026年度登録より団体登録ができます。

団体登録ご希望の団体・チーム・クラブ等の代表者の方は、団体登録の条件等がありますので、協会にお尋ねください。

団体登録は、10月20日より開始予定とします。

(一般登録、学生、審判登録は10月1日より登録可能です。)

※一般会員：4,500。(他、オンライン受付手数料：440.)

※団体登録会員(新規)：4,000。(他、オンライン受付手数料：440.)

一般会員他の、変更はありません。

お問合せ先 mail: [info \(アットマーク\) shimane-tri.jp](mailto:info@shimane-tri.jp)

※迷惑メール対策のため、@を(アットマーク)としています。

オリンピック上田藍選手 来県決定！！

2025年12月13日（土）・14日（日）

12/13（土） エイジグループ対象講習会

12/14（日） 指導者養成講習会

会員の皆様

12月13日・14日と上田藍選手の来県が決まりました。

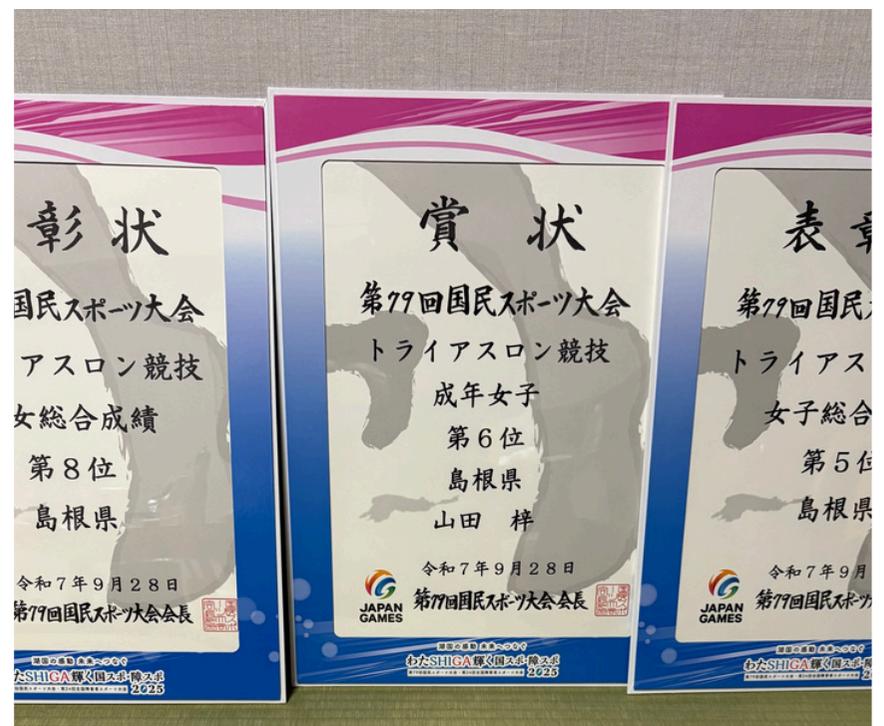
上田藍選手を講師としてお迎えいたします。

詳細は後日ホームページにてお知らせいたします。

会員の皆様方には、御参加頂きますよう、宜しくお願い致します。

速報！ 2025.9.28

わたSHIGA輝く国スポ 第79回国民スポーツ大会 トライアスロン競技



山田 梓選手！

島根県初の成年女子6位入賞 🏆

女子総合5位！男女総合8位！

応援ありがとうございました♪

詳細は、次号でレポート報告します🌟

【レースレポート】

皆生トライアスロン大会

森 正寿

島根県トライアスロン協会様のご推薦で皆生トライアスロンに初出場&なんとか完走しました森正寿です。

この度は推薦していただきありがとうございました。昨年転勤で滋賀県から島根県にきました。折角の機会なのでロング未経験だったのですが、無謀にも推薦をお願い致しました。ショートとは全くの別物でランは半分以上歩き何度もリタイアを覚悟しましたが、給水所の皆様、沿道の皆様の熱い応援のお陰で何とかゴールすることが出来ました。灼熱の皆生は予想を遥かに超える過酷なレースでゴール出来たことは自信と自慢になりましたが、今は来年出るなら B タイプかなあとひよってます。もっと練習して皆生を楽しめる鉄人を目指します。ありがとうございました。



税理士トライアスリート大会参戦記

永瀬 大輔

●はじめに

トライアスロンを始めたきっかけは簡単に言えば、昔トライアスロンをやっていた父の勧めでした。せっかくなので自己紹介がてら、これまでの経緯も少し書こうと思います。

私は島根県松江市出身で、高校卒業後に県外の大学・大学院の工学部に進学し、卒業後は静岡県（と言っても愛知県との県境）で車の大手部品メーカーの工場の工程設計の仕事をしていました。その後結婚し、第一子（長男）が生まれました。その長男は先天性の障害（呼吸障害、両眼小眼球症（全盲）、不全口唇裂など）があり、母子健康手帳には「新生児仮死⇒蘇生」と書かれていました。当時の先生には、この症例は100万人に一人いるかいないかの確率と言われました。そんな第一子をかかえ、私も妻も当時住んでいた場所からそれぞれの実家も遠く、なかなか頼ることも難しく、また仕事柄海外への長期出向もある状況だったので、不安で一杯でした。そこで、父に今後のことを相談したところ、「自分（父）と同じ税理士の資格を取って島根に帰ってくるか？」というアドバイスをもらいました。理系だった自分が今からそう簡単に税理士の資格が取れるのか、かなり迷いました。幸い職場の上司も理解があり、育児休業をフル活用して死に物狂いで勉強し、なんとか資格を取得して無事税理士になり、こうして地元島根に戻ってきました。

トライアスロンに関係するスポーツと言えば、幼稚園から小学校低学年まで続けていた習い事の水泳くらいで、学生時代の部活は軟式テニス部だったり、趣味ではフットサルを少ししかじた程度。これといった得意な種目があるわけではありませんでしたが、島根に帰ってきて少し余裕もできてきたので、幼少期に通っていた水泳教室に再び通いだしたのを機に父の勧めでトライアスロンを始めることにしました。

●今年のレース

さて、トライアスロン大会は2022年から今年で4シーズン目となりました。これまでは、YouTubeや本など独学でトライアスロンについて調べてトレーニングしていたのですが、今シーズンは、昨年末に地元のトライアスロンチームに加入させていただいたおかげで、素敵な仲間も増え、またトライアスロンの練習会にも参加でき、とても充実したシーズンを過ごせています。

今年の初戦は『LAKE BIWA TRIATHLON』でした。この大会には県外の友人6人（学生時代の友人、前職時代からの知人、そして今の税理士仲間）と参加しました。私以外は「はじめまして」同士という人もいたため、大会前日は懇親も兼ねた決起集会を実施しました。遠征の醍醐味の一つですね。

大会当日は、前日の強風で荒れていた琵琶湖が嘘のように穏やかで、波ひとつない完璧なコンディション。スイムは遠浅のコース約800mを2周回する約1.6km。前週に大荒れの中海オープンウォータースイムを完泳したおかげか、30分で順調にフィニッシュしました。



初 TT バイク !!

続くバイクは 66 キロ。今シーズンから導入した初の TT バイクにまたがり、颯爽とペダルを踏み出します。コースは琵琶湖岸を 1 往復し、その後は野洲川沿いを 5 周回するルート。朝早い時間帯で涼しく、琵琶湖の爽やかな風を感じながら走る感覚は格別でした。途中、ガタガタ道でボトルが飛び散るハプニングもありましたが、TT バイクの圧倒的な戦闘力で持ち直し、予定よりおよそ 5 分速い 1 時間 54 分 51 秒でゴール。

最後のランは琵琶湖と比叡山の雄大な景色を背に、3.6 キロを 5 周回する 18 キロ。最初こそ涼しく快調でしたが、2 周目後半から猛烈な暑さにやられ、へろへろに。何度も歩きたい衝動に駆られつつも、諦めず走り切りました。そんな苦しい中、ゴール直前で広島のプロトライアスリート・テツローさんが猛ダッシュで追い上げてきて、着差ありの同タイムゴールに。結果は 3 時間 59 分 29 秒の総合 24 位、年代別でなんと 3 位と、自分史上初の年代別入賞を果たしました！最後は追いつかれて悔しい気持ちもありましたが、車での帰路は疲れて眠いはずなのに、テンションが上がっていたのか眠気も全然なく帰れました（笑）。この大会にはトライアスロン YouTuber のヒロさんも参加されていて、ラン中に声をかけて交流できたのも嬉しい思い出です。



テツローさんとの激闘



☆祝☆ 初の年代別 3 位



全員無事ゴール!!

第2戦は『全日本トライアスロン皆生大会 Aタイプ』に挑みました。

昨年初めて参加した際は、ご存じの通り灼熱の皆生は影を潜め、比較的涼しい大会となりました。でも、初めてのロングディスタンスでの挑戦はやはり過酷そのものでした。偶然にも山陰中央新報の皆生トライアスロンの記事で取材を受け、多くの反響もありました。目標だった11時間以内の完走を果たし、「鉄人税理士」の称号を手に入れたことで満足し、「来年はでなくてもいいかな」と思っていた矢先、突然湧き上がった「まだ灼熱の皆生を味わっていない！」という謎の情熱で、結局今年もエントリーすることに。

スイムは最初できるだけ飛ばして混戦に巻き込まれない様にと考えていましたが、あっけなく後続に追いつかれ少しガチャガチャしましたが、想定の60分に対し



行ってきます!!



まだまだ元気!!

エイドでいただく水とコーラがまるで命の水となり、苦しいながらも楽しく走り切ることができました。

そしてゴールは11時間18分22秒。昨年より約23分遅れたものの、総合順位は大幅アップの131位、年代別では14位と自分的には好成績。ついに念願の「灼熱の皆生」を満喫できました。来年は総合順位二桁を目指して、さらに全力で挑みます！（完走後はもういいかなと思っていたのに、また気持ちが高ぶってきています！）

59分15秒でクリア。圧倒的戦闘力のTTバイクでバイクパートに入ると、気持ちよくペースを保ち、5時間切りも見えてくる展開。結果は5時間8分と惜しくも届かなかったものの、走りには満足感がありました。ところが、その後のランで完全に体が悲鳴をあげ、ペースダウンは避けられず。猛暑の皆生が牙をむき、途中の



ゴールした瞬間のなんとも言えない表情

第3戦は『さくらおろち湖トライアスロン』でした。

この大会は昨年、友人の応援で観戦した際に「来年は出たい！」と強く思ったのですが、今年は大会翌週に佐渡トライアスロンの参戦が控えていたため迷っていました。とはいえ、せっかくの地元開催ということで調整も兼ね、締め切りギリギリでエントリーを決めました。

スイムは水不足が心配されていましたが、無事に開催されてホッとひと安心。波もほとんどなく泳ぎやすい環境だったものの、思ったほどタイムは伸びず、苦戦しました。今回TTバイクなどは佐渡に向けてパッキング済みだったのでロードバイクでトライしました。バイクでは岡山から参加の女性選手と常に抜きつ抜かれつの白熱した展開に。そしてランパート。とにかく暑くて厳しいコンディションでした。デッドヒートを繰り広げていた女性選手にはランの2周目後半で引き離されましたが、結果2時間33分49秒の総合7位でフィニッシュ。なんと飛び賞で奥出雲の新鮮な野菜セットがあたり、ラッキーでした！



デッドヒート中

皆生大会のとき、水とコーラがおいしすぎたため、たくさん飲みすぎておなかがタプタプになってしまったという教訓を活かし、今回はとにかく掛け水で体を冷やしながら走ることを意識。結果的に、それが良い判断だったと感じています。



ゴール！！



奥出雲の野菜げっと

第4戦は『佐渡国際トライアスロンAタイプ』でした。

今年の最大目標の大会です。普段は車で遠征しますが、今回は島での開催ということもあり、飛行機と船での移動に初挑戦。バイクを輪行箱に詰めて空輸するのも初めてだったので、出発前の準備からドキドキとバタバタが続きました。

道中はチームメンバーと同行。大会経験豊富なメンバーには出発前からアドバイスや色々な手配のご指南をいただき、とても心強かったです。金曜日はまず飛行機で出雲空港から伊丹経由で新潟空港へ移動し、次に船で新潟港から佐渡の両津港へ向かいました。その後ホテルへのチェックインと会場での受付を済ませ、大会のおもてなしパーティーに参加。佐渡の地酒が飲み放題で、中には一升瓶で1万円を超えるお酒もありました。そしてたくさんの料理に舌鼓を打ち、お腹は満たされ、少しベロベロになりました。土曜日はコースの下見を兼ねて観光もしっかり楽しみました。途中、旧佐渡鉱山、佐渡金山、佐渡奉行所跡、白雲台の絶景、たらい舟などを満喫し、バイク預託時にはトランジットの動線やスイム会場の確認を入念に行いました。



白雲台の絶景



旧佐渡鉱山



たらい舟でどんぶらこ



佐渡奉行所跡

迎えた日曜日、いよいよ大会本番。まだ暗い4時に宿を出発して会場に入りました。早朝はまだ涼しく天気にも恵まれましたが、競技開始の6時頃から徐々に風が強まり、午後は雨の予報もありました。スイムは4キロ。予定通りスタートしましたが、後半は風の影響で波が非常に高くなり、軽い脱水症状も出たため完泳を最優先に。タイムは予定より14分遅

れの1時間34分52秒となりましたが、何とか完泳できてホッとしました。(Aタイプの後にスタートしたBタイプは荒波のためスイムの距離が短縮されたそうです。)



バイク預託



全員の完走を誓って!!



会場で一番おいしかったお酒



タイプB女子優勝のひらめ。さんと

続くバイクは島をほぼ一周する 190 キロのコースです。とどころ小さなアップダウンのある地形ながら、全体的には平坦基調ですが、北端近くの「Z坂」と南端の「小木坂」という2つの大きな登り坂が待ち構えています。「Z坂」を上ったとき、見下ろす景色に思わず感動し、沿道で応援してくださっていたボランティアのおばさまに「めちゃくちゃ景色が綺麗ですね!」と声を掛けました。すると即座に「私も綺麗でしょ!」と返され、一瞬言葉と同時に補給食がのどに詰まりました(笑)。スタートから「Z坂」を超えて大野亀、ニツ亀の巨岩といった名所を越えるまでは追い風に乗って順調に進みましたが、そこからは風速9メートルの強い向かい風との戦いになりました。途中、雨が降ったり止んだり、時折

強い横風にもさらされ、疲労は増す一方でした。それでも、佐渡の美しい海岸線が延々と続く絶景の中で走ることができ、風光明媚な景色が目を楽しませてくれるため、過酷なレースの中にも特別な充実感がありました。計画では「小木坂」手前までのWS（自分でボトルに水を入れるエイド）は立ち止まらずに、AS（バイクボトルを提供してくれるエイド）のみ寄っていくつもりでしたが、思った以上の疲労から、「Z坂」以降のエイドはすべて立ち止まり、掛け水やコーラをいただいて丁寧に体をケアしました。それでも目標の7時間以内はクリアし、6時間57分44秒でゴールできました。



FINISH！！

ラストのランは海岸線と商店街を使った4周回の42キロコース。周回コースのためチームメンバーと何度もすれ違い声を掛け合い、精神的にとっても支えられました。海岸線はほぼ平坦で爽やかな風が心地よく、商店街沿いの沿道の応援は熱気に満ちていました。走り

出しは意外に脚が軽く、20キロまでは快調に走れましたが、その後急に気持ち悪くなり、「残り2周を完走できるのか？」とDNFも頭をよぎりました。33キロ付近までは吐き気と戦いながらラン&ウォークで耐え、なんとか補給で体調回復できたので、ラスト9キロを

キロ4分半のペースで爆走しました。この時間帯で爆走するランナーはほとんどいませんでしたので、沿道の方々から「ナイスラン！」「脚が上がってるね！」と励ましの声を受け、とても気持ちよく走り切ることができました。



完走メダル



完走記念撮影

結果は総合118位・年代別25位でフィニッシュし、無事

に『ASTROMAN 税理士』の称号を獲得。トータルタイムは13時間6分42秒。長く厳しいレースが終わりました。皆生大会より気温は低かったものの、荒れた波と暴風、そして190キロのバイクは相当なタフさで、Aタイプの全体の完走率は61.4%だったそうです。

こうして一つの大きな山を終えましたが、この記事を書いている時点では今シーズンはまだ続いています。最後は10月に第5戦『長良川ミドルトライアスロン102秋』が控えており、これまでのレースの反省を生かし、今シーズンの集大成となる満足のいくレースを目指しています。



長かった一日が終わりました！



完走メダル(裏)

●最後に

さて、今シーズンはこれまでで最多となる5つのレースにエントリーしました。もう完全にどっぷりとトライアスロンにハマっています。これも、税理士として島根に戻ってきたからこそ実現できたことだと感じています。十分な練習時間を確保するのは容易ではありませんが、子どもの習い事の送り迎えの待ち時間に走ったり、週末は家族がまだ眠っている早朝にトレーニングしたり、繁忙期には夕食後に練習をしてから再び仕事に取り組んだり、工夫を重ねながら日々積み上げてきました。日々の練習や大会への参加を支えてくれている家族の存在には、心から感謝しています。

これまで本当にさまざまな出来事がありましたが、その後3人の娘にも恵まれ、今は家族6人で賑やかな毎日を送っています。チームの仲間からはよく「家族で同伴ゴールは？」と勧められます。まだ一度も実現したことはありませんが、いつかどこかのレースで家族と一緒にゴールできる日が来れば、きっと忘れられない思い出になるだろうと楽しみにしています。

トライアスロンの醍醐味の一つは、年齢に関係なく全力で自分自身に挑み続けられることです。実際、年上でありながら自分よりはるかに速い選手がたくさんいて、レースのたび

に「まだまだ成長できる」と強く感じます。また、トライアスロンを続けていると、日本中さまざまな大会会場で思わぬ有名人やトップ選手、県外の友人に出会えるのも楽しみの一つです。毎回の大会が新しい出会いと刺激に満ちていて、それが大きなモチベーションになっています。

振り返ってみると、一つひとつのレースがかけがえのない思い出となり、日々の練習や出会いを通じて自分が成長してきたのだと実感しています。レースそのものは個人競技ですが、練習や遠征を共にする仲間が存在があることで、その過程がより充実した時間となり、かけがえのない経験へと変わっていきました。

税理士の仕事も、個人の努力(勉強)だけでなく綿密な計画性と予測力が欠かせません。クライアントの状況を把握し、適切な対応を準備することで信頼関係を築いていく点は、トライアスロンの練習計画や状況変化に応じた調整とも共通しています。こうして一步一步積み上げてきたプロセスこそが自分の力となり、どちらにおいてもゴールを目指して粘り強く挑戦し続けることの大切さを改めて実感しています。

これからも感謝の気持ちを忘れず、年齢や状況にとらわれることなく、税理士トライアスリートとして、挑戦を楽しみ続けたいと思います。応援してくれる家族や仲間、そして大会を支え、沿道で励ましてくれるすべての方々から感謝の気持ちを込めて——また次のゴールを目指し、一步一步着実に進んでいきたいです。

最後までお読みいただきありがとうございました。これからも皆さまとともに、歩みを進めていければ幸いです。

●色々な有名人と(おまけ)



2023年
伯方島トライアスロン
道端カレンさん



2024年
Mt.富士トライアスロン
ヒロミさん



2025年
LAKE BIWA TRIATHLON
YouTuber ヒロさん
テツローさん

第 7 回さくらおろち湖トライアスロン大会

審判長として参加して

佐野 堅二

今年の「第 7 回さくらおろち湖トライアスロン大会」では、審判長を務めさせていただきました。

昨年は選手として初めてこの大会に参加させていただき、結果こそ振るいませんでしたが、ダム湖でのスイムや名物の階段など、特徴あるコースをしっかりと体感し、非常に楽しい経験となりました。

当初はリベンジ出場も考えておりましたが、大内理事長から審判長としてのお声がけをいただき、今回は立場を変えて大会を支える側として参加することにいたしました。

大会までの準備

コロナ禍以前までは「キラキラ雲南」と「島根県トライアスロン協会」が実行委員会として運営を行っておりました。現在も体制は変わりませんが、島根県トライアスロン協会が担う割合が多くなっており、そのご苦勞を改めて実感いたしました。

大会開催に向けては、現地の状況を確認しながら、主に Web で打ち合わせを重ねました。中でも尾原ダムの水不足が懸念され、8 月時点の会議では「スイム中止もやむなし」といった話が出るほどでした。日々、天気予報とダムの貯水率をにらみつつ、祈るような気持ちで過ごしておりましたが、幸い 8 月中旬の大雨により水位も回復。入水地点の足場も地元の方々が修復してくださり、結果として無事にスイムを含めた 3 種目での開催が実現できました。

大会前日

コース設営中には、地元倉庫でスズメバチの襲撃があり、部材の搬出が困難になるというアクシデントが発生。しかし、県外から応援に来られた審判員（以降 TO:テクニカルオフィシャル）の皆さんのご協力により、予定どおり無事に設営を完了することができました。

宿泊は県外 TO も一緒に「さくらおろち湖支援センター」にて
母里コック長の美味しい料理に舌鼓を打ち、楽しいお酒と談笑を楽しみながら、和やかなひとときを過ごしました。大会前夜とは思えないほど、リラックスした時間となりました。
宿泊費食費は自己負担になりますがこれもいい経験になります

大会当日

当日の予想最高気温は 35 度と非常に厳しい暑さが予想されていましたが、熱中症警戒アラートは発令されず、安全対策を徹底したうえで、予定通りスタンダードディスタンスでの開催を判断しました。

中高生カテゴリーについては、今年はエントリーが実行最低人数に満たなかったため、残念ながら中止となりました。一方、一般カテゴリーは予定通りのタイムスケジュールで進行することができました。

新井会長のスタートの合図とともに、選手たちが一斉にさくらおろち湖へと泳ぎ出す光景を目の当たりにし、「すごいなあ」と感動すると同時に、「絶対に事故なく終わらせなければならない」という緊張感が一気にこみ上げてきました。スタート直後から一瞬たりとも湖面から目を離すことができず、身が引き締まる思いでした。

素晴らしいライフセーバーの皆さんの的確な対応のおかげで、スイムパートは無事に事故なく終了することができました。

続くバイクパートでは、数名の転倒者が発生しましたが大事には至らず対応できました。

気温はどんどん上がり、選手たちの表情からも暑さがじわじわと体力を奪っている様子が伝わってきました。

そしてランパートに移る頃には、暑さはピークを迎え、エイドステーションでは用意していた氷がすぐに溶けてしまい、かぶり水の浴槽の水もぬるくなってしまうなど、環境は過酷さを増していきました。そんな中でも、スタッフの皆さんが水汲みを何度も往復して対応してくださり、本当に頭が下がる思いでした。

選手もスタッフも一生懸命に、それぞれの立場でこの大会に向き合う姿に、深く感銘を受けました。

ゴール地点では、次々にフィニッシュしてくる選手たちに拍手を送りました。

JTU ルール上、TO は原則として選手への応援は控えることとなっていますが、ゴールの瞬間だけは、惜しみない拍手を送りました。

観客の少ない大会だからこそ、我々がその場の空気を盛り上げていかねばならないと考えています

ローカル大会では何処も同じですね。どこも暖かいですね。

残念ながら制限時間に間に合わなかった選手もおられました。大きなトラブルなく、すべての競技を終えることができ、ほっと胸を撫でおろしました。

審判長を終えた感想

大会は無事に終了し、大きな事故もなく、選手・スタッフ共に一生懸命大会に取り組む姿勢が印象的でしたが、いくつかの課題も浮き彫りになりました。

一つが、競技規則に関連するペナルティの対応です。

トライアスロンには共通の競技規則がありますが、各大会にはオリジナルのルールが存在し、選手も審判も時には戸惑うことがあります。特にルールに違反した場合、ペナルティが課せられますが、審判員(TO)の仕事はペナルティを取るのではなく、違反が起これないように指導や注意を与えることだと考えています。

例えば、バイクから反射板やライトを取り忘れた選手や、トランジッションエリアで収納カゴから靴やサンダルがこぼれてしまった選手が数件報告されました。

多くはトランジッションのTOがその場で注意し、選手がすぐに直して競技を続けることができました。しかし、注意を行えなかったケースもあり、その際はバイク後やラン後に選手に「あなたは〇〇がルールに反しています」と丁寧に説明しました。

幸いにも、今回の参加選手は反発することなく、すぐに納得し、「すみませんでした」と反省の態度を見せてくれました。そのため、今回はペナルティを科すことなく、警告にとどめました。

しかし、この判断が「さくらおろち湖大会ではペナルティを取られない」といった誤解をされないように今後はルールの重要性を選手たちにしっかりと伝えていく必要があると考えています。

もちろん、注意や指導に従わない選手には、今後も厳格にペナルティを適用する方針です。

来年以降も、ルールの徹底を求め、参加者の皆さんには安全のためと公平性のためにルールがある事を理解していただき、守るための努力をお願いしたいと思います。

ペナルティを避けるためにもルールを遵守することが重要です。

まとめ

「日本一安い大会」「何もないのが取り柄の大会」とも言われるさくらおろち湖トライアスロン大会ですが、だからこそ、人と人とのつながりや地域の温かさがより際立つ、魅力的な大会であると強く感じています。

今年も無事に開催できたことを心より感謝申し上げますとともに、来年もぜひ、この大会に関わっていきたいと考えています。

END

第22回キッズスイムラン in 多伎

岡 秀樹

9月7日(日)、出雲市多伎町のキララビーチにて、第22回キッズスイムラン in 多伎を開催しました。この大会は小学1年生から中学3年生を対象としており、今年も島根県内はもとより、鳥取や広島からの申込もありました。申込者は17名、当日は16名が参加し、4つのクラスに分かれてそれぞれ設定された距離に挑戦しました。

この大会は約25年前に始まり、コロナ禍での休止を経て今年で22回目を迎えました。昨年の会報でも触れましたが、この大会は「スイムラン in 多伎」(以下スイムラン)を参考に、島トラ関係者が企画したもので、名称もスイムランに倣い、「キッズ」を付けて「キッズスイムラン in 多伎」としました(当初は対象を小学生から高校生としたため「キッズ&ジュニア」としていました)。開催日はスイムラン前日の土曜日としましたが、会場はその頃からスイムランのメイン会場としていた田儀港の海水浴場にして、スイムランの応援に来られた選手のお子さん達も参加しやすいよう、また会場設備等を共有し同じ場所で開催したかったのですが、小学生がスイム競技を行うのは安全管理上困難と判断し、キララビーチで開催することにしました。

大会開始当初は猛暑の危険性が今ほど認識されていなかったため、スイムでの事故や砂浜のランニングによる負担、海水浴客とのトラブルなどを心配していて、子どもが参加する「ミニスイムラン」と単純に考えていましたが、子どもは大人のように競技を理解していないこと、ご家族が選手以上に熱心に応援されることなど、さまざま気づかされました。子どもは大人のミニチュアではない、という大切な学びも得ました。とにかく想定外の連続でした。

今年の大会では、何より波が強かったことが大きな想定外でした。会場に向かう前に地元スタッフから「波は高いが何とかなる」との連絡は受けていましたが、実際には大人でも泳ぐのが難しいほどの状況でした。準備を進めながら波が収まるのを待っていましたが、一向に収まらずスイム中止も検討しました。それでも、スイムガードを担当した島トラメンバーのライフセーバーが安全に実施できるコースを設定し、選手を確実にガードできる体制を整えてくれたおかげで、安心してスイム競技を行うことができました。

近年の8月は猛暑で砂浜のビーチで走る競技を行う事は厳しい状況ですが、さすがに9月になると朝晩は涼しくなり、日中は気温が上がっても、かなり凌ぎやすくなります。選手は勿論大変ですが、応援のご家族の方や我々スタッフも大変です。25年が経過しましたが、スタッフの顔ぶれはあまり変わらないので(笑)この部分も改善必須です。それでも、手際よく大会運営をしてもらえるので、事前の打ち合わせなど殆どなくても何とか開催出来ています。このスタッフ協力無しでは今までもこれからも無いわけですが、やはり新たなスタッフを募集したいと思いますので、来年の9月上旬は皆様のスタッフ参加をお待ちしております!

トライアスロンは部活動として行う競技ではなく、特に島根では大人が趣味として始めるケースが多い競技です。そのため、子どものころからの競技人口を増やすのは容易ではありません。しかし、成長期には一つの運動に偏らず、多様な運動を経験することが重要とされています。この大会も競技人口の増加だけを目的とするのではなく、チャレンジスポーツとして「いつでも誰でも楽しめる競技」として根付いていくことが理想ですし、それに合わせて気軽にサポーツ参加する雰囲気になれば良いと思いますので、引き続きよろしくごお願い致します。



チャレンジ隠岐の島 2025 ～ジュニアトライアスロン体験会～

隠岐の島町 加藤一朗

8月23日（土）隠岐の島町中村海水浴場周辺において、チャレンジ隠岐の島 2025～ジュニアトライアスロン体験会～を開催しましたので報告致します。

参加者は小学3年生2人、4年生3人、5年生2人、6年生3人の計10人でした。中村海水浴場でのチャレンジ隠岐の島は昨年に引き続き2回目となりましたが、今年も自転車レンタル希望の児童が多かったため、島根県トライアスロン協会の母里さんには、本土から自転車を沢山運んで来てもらい、児童に合わせて調整をしてもらいました。また、同じく島根県トライアスロン協会の下田さんには、レース前に事前に自転車・ランニング・水泳の安全教室を開催してもらいました。お二人には厚く御礼申し上げます。

さて、ジュニアトライアスロンのコースですが、水泳は透明度抜群の中村海水浴場の足の着くところで砂浜に平行に25mロープを張り、低学年は25m、高学年は25m泳いだのちに一旦砂浜に上がってスタート地点まで戻り25m×2泳ぎました。自転車は海水浴場隣の漁港の1周500mのアスファルト道路を低学年は2周、高学年は4周走り、ランは芝生を中心とした海水浴場隣のスペースを低学年は500m弱、高学年は1000m弱走りました。

今年はなんと、縁あってあの元日本代表の白戸太朗選手もスタッフ参加され、児童達に熱いエールを送っていただきました。小学生のときに一流選手と一緒にトライアスロンを楽しめたことは、必ず将来につながる大きな糧になると思いました。



島根県トライアスロン協会役員紹介

氏名 岡 秀樹 島根県トライアスロン協会副会長 56歳	ニックネーム 特になし
これまでのレース歴（トライアスロン以外も） 日進ミニトライアスロン、伊良湖、さぎしま、天草、小豆島、皆生などに複数回参加（年代不明） マラソン：松江城（5回）、鳥取、津山加茂郷、東京	所属チーム 島根トライアスロンクラブ
	主な練習場所 スイム：平田SS B&R：出雲市平田エリア
	趣味 トライアスロン以外で 仕事、柔道、ライフセーバー
自己紹介 <p>高校生の夏、テレビで皆生大会のニュースを見て、「すごいことをする人たちがいるな」と耳を傾けた記憶がありました。高校までは柔道中心の生活で、学業には劣等感を抱いていました。掛合の山の中で育ち、夏は毎日川で泳ぎ、冬は雪の中を転げ回って遊んでいました。小さな学校だったので、ほとんどのスポーツ大会で選手に選ばれ、運動には自信がありました。</p> <p>高校卒業後、社会人1年目のとき職場の仲間とプールへ行き、50mを泳ぐことになりました。自信満々で泳ぎ始めたものの、半分あたりで呼吸が乱れ腕が動かなくなり、足をついてしまいました。何度やっても同じ結果で、運動だけは得意だと思っていた自分にとって大きなショックでした。そんな時、伊良湖トライアスロンの存在を知り、失った自信を取り戻すには記憶の片隅にあったトライアスロンしか選択肢はありませんでした。</p> <p>トライアスロンへの挑戦は決めたものの、道具も知識もなく、当時はネットもありません。雑誌やバイクショップで少しずつ情報を集めながら準備をしていましたが、手始めに愛知県の国体記念で開催された「日進ミニトライアスロン大会（S800m×B16km?×R5km）」に挑戦することにしました。大会までの準備期間が短くクロールがなかなか上達しなかったため、スイムは平泳ぎ、バイクは自前のマウンテンバイクでの参加となりました。</p> <p>体力には自信があったので上位入賞を目指しました。スイムは約100人中30位ほど、バイクでも順位を上げ、いよいよランへ。ここでトライアスロンの洗礼を受けました。マウンテンバイクを全力で漕いだ後のランはまるで他人の足のように動かず人生初体験で歩いた方が速いくらいでした。それでも「絶対に歩かない、これが最初で最後だ」といつの間にか引退レースを心で誓い、当時勤めていた病院の整形の先生と看護師が救護で来ていたので、その目を気にしながら走りました。</p> <p>やっとの思いでゴールの直線に入ると、整形の先生が自慢のカメラを構えて待っていましたが、悔しさから下を向いてゴールをしました。しかし、ゴールした瞬間、「次はどこに出よう！」と思いました！ここから私のトライアスロンという旅が始まりました。</p> <p>翌年は1年間練習を積み、東海地方で有名な伊良湖トライアスロンに出場。その時にゼッケンナンバー3の島根県選手を見てS宮さんの名前を知りました。その2年後、島根に戻り、M里さんをはじめ多くのレジェンドと知り合い、トライアスロン中心の生活が始まりました。</p> <p>あの時泳げなかった50mの理由も後に分かりました。学業は二の次だったものの、トライアスロンを通して多くのことを学びました。仕事も中途半端でしたが、今ではその学びが役に立っています。一芸に秀でるほどではなかったと思いますが、他に通じるものも得たと思います。以上、旅先より。</p>	
今年のご目標 島根かみあり国スポ全スポ2030の準備	

島根県トライアスロン協会役員紹介

<p>氏名 加藤 一郎 島根県トライアスロン協会理事（メディカル）52歳</p>	<p>ニックネーム まっちょかとう</p>
<p>これまでのレース歴（トライアスロン以外も） 過去：皆生5回位 アイアンマン3回 徳之島3回等 最近：2024年度MINANO30k FORESTRAIL38k</p>	<p>所属チーム 隠岐トライアスロンクラブ</p>
<p></p> <p>第17回全日本トライアスロン皆生大会 H9. 7. 20日</p> <p>皆生初出場のその当時の彼女（今の妻）とのゴールシーン</p>	<p>主な練習場所 隠岐の島</p> <p>趣味 仕事と相撲</p> <p></p> <p>徳之島の1か月後の古典相撲</p>
<p>自己紹介</p> <p>安来市の山奥（旧広瀬町）の生まれであったため小学校にプールがなく、大学入学時には25mも泳げなかったのですが、水泳部の友人に個人レッスンしてもらいなんとか100m泳げるようになってから、トライアスロンの大会に初出場しました。以後学生の頃はオリンピックディスタンスを中心に出ていましたが2時間がなかなか切れずショートはあきらめ、学生最後にアイアンマンNZと皆生に挑戦して完走できたことが良い思い出です。</p> <p>大学卒業後は仕事が忙しいのを言い訳に少し競技から離れていましたが、30歳代に再びアイアンマンと皆生に挑戦し、40歳代で徳之島のミドルを3年連続完走してからは、再び仕事が忙しいことを言い訳にしばらくトライアスロン競技から離れています。現在は山道を走るトレイルランニングに夫婦で出場していますが（今年の会報誌1月号をご覧ください）、またアイアンマンに出場したいと密に企んでいます。島根県トライアスロン協会の役員としては、メディカルと会報誌を担当していますので、皆様よろしくお願ひします。</p> <p>FaceBookしていますのでもし良かった友達申請下さい→ また私の仕事が漫画になったので良かったら見て下さい →</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	
<p>今年の目標 ダイエット</p>	